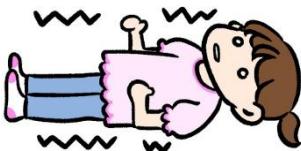


けいれん



- なんらかの原因により脳神経が異常に興奮し、本人の意思と関係なく一定の時間体がピクピクしたり突っ張ったりします。熱性けいれん・胃腸炎関連けいれん・髄膜炎・脳症・てんかん等があります。
- 呼びかけても反応がない、白目をむく、口唇の色が青ざめる、口から泡を吹く、嘔吐を伴うこともあります。

あてはまる時は救急車を呼びましょう

- けいれんが5分以上続く
- けいれん後30分たっても意識が戻らない
- けいれんを短時間に繰り返した
- けいれんする前に頭を強くぶつけていた



落ち着いて観察を

けいれんのほとんどは数分(5分以内)で止まります。
その場に居合わせた時は観察ポイントを参考に観察しましょう。
観察ポイント事項のメモか撮影できたら動画があると診察時役立ちます。
けいれんが止まったら落ち着いて受診をしましょう。



観察ポイント

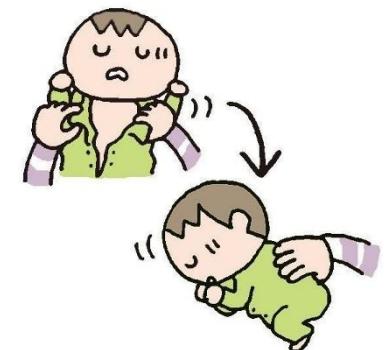
- 持続時間→5分以上続く場合は救急車
- 手足の動き→左右対称ですか？
- 目の向き→どこを見ていますか？
- 顔色→青くなっていますか？
- 体温→熱はありますか？



ホームケアのポイント

Point

- 平らで安全な場所に寝かせましょう。衣服がきつい時はゆるめましょう。
- 吐いたものが喉につまらないように顔を横に向け、上の観察ポイントに沿って観察します。



『やってはいけないこと』

- 口の中に手や指を入れない
- ゆすったり叩いたりしない
- けいれん中に飲み物等はあたえない(誤飲や窒息のリスク)

けいれんと紛らわしい症状

悪寒: 体が急に熱を上げようとする時に筋肉を細かく収縮させて熱を作ること。けいれんのように全身震えるが、意識がある。悪寒がある時は温かくしましょう。

熱せん妄: 高熱がある時にぼーっとしたり、うわごとを言ったりすること。意識がないように見えるが、名前を呼んだり、肩を叩くなどの刺激で反応がある。